

某社 殿

工事
脱臭設備
設備検討書

			表紙共 5 枚			
				営業技術部		
				承認	確認	作成
			提出	営業技術部長	下村房雄	下村次郎
符号	改正年月日	訂正理由	作成			
脱臭装置株式会社			図書番号	E420000C900-0		

1. 結果

今回脱臭対象臭気は 対象であるため、各種の
・ 等が含まれていると思われますので薬液洗浄又は、生物洗浄で前処理し
吸着剤による脱臭設備の設置をお薦め致します。

2. 考察経緯

一般脱臭設備に於いては、水洗浄、液洗浄、燃焼酸化による酸化分解方式等ではありますが、排出される窒素酸化物（NOX）・硫黄酸化物（SOX）の問題から脱臭設備の方式を考えますと、臭気成分中の窒素（N）硫黄（S）は酸化分解しますと必ず窒素酸化物（NOX）・硫黄酸化物（SOX）となってしまいますので、酸化分解はお薦めできません。又空気温度を上げるだけでも空気中の窒素（N₂）と酸素（O₂）により窒素酸化物が生成されます。

酸化分解の前処理薬液として硫酸（H₂SO₄）を使用しますと、硫酸中の硫黄（S）分により更に硫黄酸化物（SOX）を発生する事になり、塩酸（HCl）を使用しますと（Cl）分によりダイオキシンの発生が懸念され、薬品を使用すればするほど排気ガス・廃水ともに汚染物質を大量に含む事となり当初目的である悪臭の除去は達成されても、自然環境への負荷は増大してしまいます。（そのまま排出すれば1の物質で済みますが、わざわざ薬品を添加することにより2以上の物質を自然環境に排出する事になります。）

自然環境に与える負荷を軽減し高度な悪臭除去を行うには装置設備費は高額となりますが生物洗浄脱臭塔+吸着剤脱臭塔方式を採用されまのが最良の選択であると考えます。設備費を軽減するため吸着剤脱臭塔のみを設置する選択肢も十分考慮される必要があると思われます。

3. 検討資料

次ページ以降に比較表等を添付いたします。